

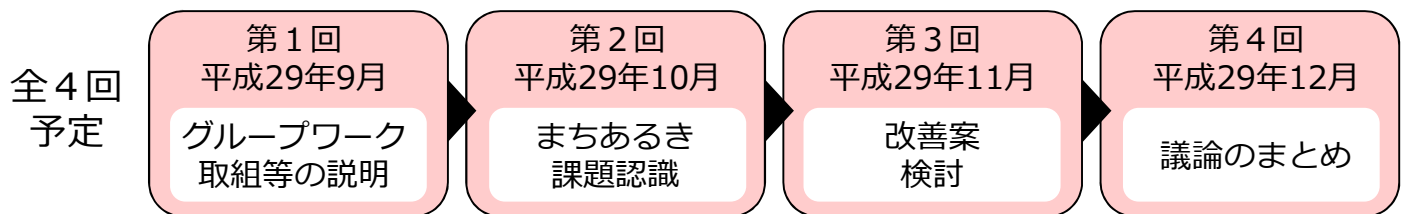
柏市立土小学校市民ワークショップ 第1回

●市民ワークショップを開催しました。

- ◆開催日時 平成29年9月21日（木）午後4時00分～6時30分
- ◆参加者 21名
- ◆第1回テーマ 「学校への想いを語ろう！」

本市では小中学校校舎のリニューアルプロジェクト（長寿命化改良基本計画方針策定）を進めており、建設から40年以上が経過した学校校舎のリニューアルを実施する上で、安全性の確保、学習環境の多様化に対応する施設整備はもとより、地域とともにある学校づくりを目指しています。

そこで、土小学校をモデル校として、これからの学校施設のあり方、土小学校の将来について話し合うワークショップを開催しました。ワークショップは、全4回を予定しています。この中で出された意見を今後の学校施設づくりに反映させていきたいと考えています。



●第1回の主なプログラム

1. グループワーク

小学校への「想い」や「関わり方」などをイラストなどで画用紙に表現し、グループごとにまとめる

2. 発表・意見交換

グループごとに発表、質疑応答と意見交換

3. 柏市の学校施設の実態等の説明

学校施設の現状と課題、公共施設等総合管理計画の概要等について説明

●グループワーク、発表・意見交換

Aグループ：教職員、市職員で構成



「ワクワク」

- ・ワクワクという言葉は共通のキーワードであった。
- ・いろいろな遊具、プールといった学校そのものが楽しい場。
- ・外だけでなく図書室といった室内でも楽しいことがたくさんある。

「自然」

- ・池や桜の木、花壇といった自然がたくさんある。

「行事と地域」

- ・学校によって力の入れ方が異なるので特色がある。
- ・運動会は地域の人達と触れ合える行事であり、勝ち負けの楽しさも学ぶ場であった。

Bグループ：保護者，市職員で構成



「施設」

- ・ 土小学校は、当時（30年前）は建物が独立していて段差だらけだった。（土小卒業生）
- ・ プールは、地域の人達がお金を集め、設置された経緯がある。

「地域」

- ・ 運動会は地域との結びつきが強い行事であった。
- ・ デイサービスが設置されていたので、世代間の交流会があった。

「ゆとりのある教育」

- ・ 勉強も大事だが、遊びに行くこともとても大事にしていた。
- ・ 自発学習という時間があり、探求していく力がついた。
- ・ 先生は暖かく見守ってくれていた。

Cグループ：地域住民，市職員で構成



「教室」

- ・ 古い学校で、木造校舎で薪ストーブがあった。
- ・ 図書室は周囲にお花が植わっていて、くつろげる場所であった。

「外，校庭」

- ・ 土小学校の今の桜の木の場所は、校舎が後ろにあった名残。また、地域の人達が芋を売って建てた「芋講堂」があった。（土小卒業生）
- ・ 放課後、校庭が開放されており、自主的に遊んで楽しかった。
- ・ 中庭で動物を飼っており、くつろげる場所があった。

「四季」

- ・ 学校は四季を感じられる場所であった。

●ファシリテーターのまとめ

- ・ 参加者の発表はそれぞれの思い出がベースとなっていたが、学校の基本となる大切な要素や、「歴史性」や「自然」といった地域にまつわるキーワードもあった。
- ・ プールや講堂を設置するときに地域の方が資金集めをしたという素晴らしい話、発想が出ていて、さまざまな工夫や地域の協力をどのように得ていくのか、というポイントを確認できた。
- ・ ワクワクや大らかさといった“子どもたちの気持ちを作っていく学校”を整備していく必要がある。その中でも、「工夫」が必要で、今回すでにアイデアがたくさん出ていた。
- ・ 次回以降、子どもの視点も加えながら、それぞれの視点で具体的なアイデアを出していきたい。



～ ファシリテーターご紹介 ～



志村 秀明教授
1968年東京都生まれ
芝浦工業大学
建築学部建築学科教授
博士（工学）、一級建築士
専門分野：まちづくり、市民参加、
都市計画